

Newsletter of Center for the History of Meiji University — —

スレター 明治大学史 No.11



人権派弁護士研究会合同調査(2013年8月1日 岩手大学にて。前列中央早坂啓造岩手大学名誉教授、 同左森正名古屋市立大学名誉教授)

目次

(巻	頭言) 大	学史資料センターの役割	L	山泉	進	2
特集	センター	調査報告				3
I 人権派弁護士関係/Ⅲ アジア留学生関係/Ⅲ 昭和歌謡史(阿久悠)関係/IV 志田鉀太郎関係/V 創立者・法律学校・法典論争関係/VI 他大学アーカイヴズ関係/Ⅲ 学内資料関係						
20	13年度	大学史資料センター事業報	竞告			7
明治大学史資料センター規程						11
大学史資料センター刊行物案内						12
		の妻 三木武夫と歩いた生涯/布施原 研究/明治大学アジア紹学生研究 I /		人物編/	明治大	

(巻頭言) 大学史資料センターの役割

明治大学史資料センター所長 山泉 進

明治大学史資料センターは、明治大学の歴 史にかかわる資料収集・整理保存・公開等を 主たる目的とし、「明治大学史」として記 録・刊行していく役割をもっています。その 活動の1つとして、2011年には明治大学創 立130周年記念として『明治大学小史』 (通 史編・人物編)を2冊刊行したほか、国際化 に対応するために通史編の英語・中国語(簡 体字・繁体字)・ハングル版、4冊を刊行し ました。また、教育面では、本センターが コーディネートして学部間共通総合科目「明 治大学の歴史」を4キャンパス(駿河台・和 泉・生田・中野)で開講しています。最近で は他大学においても初年次講座の1つとして 「自校史」教育が注目をうけていますが、本 学では1997年度から「日本近代史と明治大 学」と題して他大学にさきがけて開講しまし た。また、リバティアカデミーでの講座開 設、「阿久悠記念館」の展示のような社会連 携にかかわる役割なども担っています。

そして、何よりも明治大学史資料センターの特色は、これらの諸活動を共同研究によって支えている点にあります。現在は、「創立者研究会」「アジア留学生研究会」「財界人研究会」「昭和歌謡史研究会」「人権派弁護士研究会」を設置し、運営委員が分担してかかわり、研究調査員と事務局との協力をえて研究活動をおこなっています。その成果は、『大学史紀要』に発表しています。ちなみに、昨年度は特集として「アジア留学生研究」」を組みました。もちろん、「アジア留学生研究会」での共同研究の成果報告です。

大学史資料センターの活動は、直接的に は、「100年史」刊行をめざした「歴史編纂 専門委員会」から始まります。この委員会の 仕事は、1985年に「百年史編纂委員会」へ と引き継がれ、当時、文学部教授であった木 村礎さんが委員長に就任しました。その後、 木村礎さんの学長就任にともない、法学部の 中村雄二郎教授へと引き継がれました。そう して、この二人の委員長のもとで編集・刊行 されたのが『明治大学百年史』(全4巻、 1986~1994年) になります。「100年 史」刊行後の1995年に、「百年史編纂委員 会」の仕事は、関係資料の調査・収集・保 存、あるいは展示などの活動を目的とする 「大学史料委員会」へと引き継がれ、2003 年から名称を変更して、現在の「明治大学史 資料センター」になっています。

『ニュースレター』は、資料センターの1年間にわたる活動をコンパクトにまとめてお知らせするための広報誌です。その他にも、センターの事業報告として『大学史活動』を刊行しています。また、資料センターの運営委員を中心に定期的に執筆しているものとして、『M-style』に連載されている「大学史の散歩道」(年8回)、それに、季刊雑誌『明治』に、事務局によって連載される「目で見る明治大学の歩み」(年4回)があります。これらによって、本センターの意義を、在学生や卒業生、父母や校友の方々にも知っていただけるようにしています。あわせてご講読下さい。

特集 センター調査報告

大学史資料センターは明治大学のアーカイヴズとして、大学が歩んできた歴史に関する様々な調査・資料収集活動を行い、蓄積した資料を整理して基礎資源として各種問い合わせへの対応、成果物等の刊行、展示会等を開催しています。本号では2013年度に実施した調査をご紹介します。

I 人権派弁護士関係

○ 人権派弁護士研究会合同調査

〈2013年7月31日(火)〜8月2日(金) 山崎今朝弥関係資料調査および巡見(青森県弘前市)、小繋事件関係資料調査および巡見(布施辰治関係・岩手県二戸郡一戸町)〉

第2期人権派弁護士研究会(研究代表 山泉進法学部教授〔センター所長〕・村上一博同教授〔センター運営委員〕〕では司法の世界で多大な実績を挙げた明治大学出身者について調査を進めています。

今回は人権派弁護士として名高い布施辰治(1880-1953)と山崎今朝弥(1877-1954)の調査を行いました。7月31日は山崎の妻・さいの出身校である弘前学院資料室において関係資料調査を行いました。

翌8月1日は、弘前市内の藤田記念庭園(本学卒業生の実業家・藤田謙一旧邸)を見学したのち、岩手大学にて早坂啓造同大名誉教授から入会権をめぐって長く争われた小繋事件関係資料を収める同大図書館所蔵の「小繋事件文庫」について説明を受け、資料を実見しました。布施辰治は同事件の原告側主任弁護士を務めました。また、森正名古屋市立大学名誉教授から執筆中の布施辰治評伝について報告がありました。最終日は小繋集落に向かい、関係地の巡見を行いました。

なお本調査に関しては「岩手日報」の取材を受けました。





山崎今朝弥(写真左)と布施辰治(同右)



小繋巡見

(山泉進・村上一博・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹 ※氏名は調査者。以下同じ)

Ⅱ アジア留学生関係

○ アジア留学生研究会調査

〈2014年3月7日(金)~10日(月) 韓国ソウル市ほか〉

アジア留学生研究会では、明治大学が受け入れた多数のアジア留学生のことを中心に研究を進めています。

2012年度から人文科学研究所の総合研究「アジアの政治社会の民主化と明治大学留学経験についての

ニュースレター明治大学史 No.11

総合的研究」の採択を受けています(2014年度終了予定)。2013年度は、総合研究の一環として前年に引き続きアジア地域で現地調査を実施しました。今回の調査では、韓国・ソウル市を中心として調査を行いました。

まず明治大学校友会大韓民国支部支部長朴元錫氏(元韓国外国語大学校法科大学学長)・同幹事長厳泰又氏と面談し、両氏の日本留学時代の思い出やその後の活動等を伺うとともに、2014年度に大韓民国支部のご協力を得て実施する予定のアンケート調査に関する方法等について協議しました。席上朴支部長から戦前・戦中期に明治大学に留学した校友で、インタビューが可能な方が数名おられるとの情報提供をいただき、2014年度にインタビューを実施することになりました。また朴支部長からは明治大学朝鮮留学生同窓会『会報」などのコピー、明治大学韓国留学生機関誌『白雲』創刊号・第2号の実物の実物提供を受けました。

その後、国立中央図書館で、明治大学を中心とする韓国人留学生に関する研究書・人名鑑・新聞記事、龍う学生が刊行する雑誌等の所蔵調査を行いました。韓国併合直前の韓国人留学生に関する博士論文や、韓国文教部編『国外留学生名簿』、『大韓民国法曹人名大辞典』掲載の明治大学出身者に関する箇所を複写しました。また書店で『韓国近代刑事裁判制度史』や、『日帝独立運動史研究』等韓国人日本留学生に言及されている書籍を購入しました。

最後に韓国人日本留学生に関する見学を行いました。まず朴支部長のご教示により軍事境界線の 烏頭山へ赴き、展望台のかたわらに立つ「朝鮮のガンジー」曹晩植(1884-1950)の銅像を見学 しました。曹は明治大学法学部出身の独立運動家で、戦後は南北統一国家の樹立を目指したが北朝鮮 で行方不明となりました。その他三・一独立運動で独立宣言が読み上げられたタプコル公園(パゴダ 公園)を見学しました。

(高田幸男・山泉進・村上一博)

Ⅲ 昭和歌謡史(阿久悠)関係

① 遠藤隆二氏聞き取り〈2013年3月19日(火)明治大学史資料センター閲覧室〉



昭和歌謡史研究会では現在、作詞家・作家阿久悠(1937-2007)のことを中心に研究を進めています。明治大学で阿久と同窓であった遠藤隆二氏にお話を伺いました。遠藤氏は、阿久と同じ明治大学文学部同級生として、1955(昭和30)年に入学し。阿久と親しくなったのは、1958年6月の教育実習で阿久と同じ中学校に教生として実習したことがきっかけだったそうです。遠藤氏からは、教育実習での阿久の様子や、卒業後の交流などについてお話しいただきました。

(吉田悦志・村松玄太・阿部裕樹)

② 秦莞二郎氏聞き取り〈2013年3月25日(月曜)明治大学史資料センター 閲覧室〉

秦氏は、淡路島の兵庫県立洲本高校で阿久と3年間クラスを共にしました。また1955年の上京直後に阿久と秦氏は同じ下宿のルームメイトだったこともあります。

秦氏からは高校時代の阿久や担任の先生のこと、上京後の共同生活等についてお話を伺いました。

秦氏は著名な書家として活躍をされています。阿久の歌詞を色紙に揮毫 した作品をご寄贈いただきました。

(吉田悦志·村松玄太·阿部裕樹)



IV 志田鉀太郎関係

○ 志田俊郎氏聞き取り〈2013年4月13日(土)神奈川県内〉

志田鉀太郎(1868-1951)は、商法研究の大家として知られ、明治大学商学部の設立に尽力した人物です。1940年には明治大学総長に就任しました。

志田俊郎氏は、鉀太郎のご令孫にあたります。昨年、俊郎氏の許に伺い志田について種々お話をうかがいました。今回は二回目の訪問となります。同氏からは福田徳三(経済学者)との関係を中心にお話を伺いながら、同家に保存されている多数の志田と明治大学に関する写真や資料のご恵贈を受けるとともに、志田の広い交友関係の分かる「来客帖」などを閲覧させていただきました。なお同調査には福田徳三についての研究をしている清野幾久子法科大学院教授も同行しました。



(山泉進・村松玄太)

志田鉀太郎

V 創立者·法律学校·法典論争関係

○ 宮城浩蔵弁護関係記事及び法律学校等関係資料の収集調査〈2014年3月15日(土)~17日(月) 岡山県立記録資料館(岡山県岡山市)・広島県立図書館、広島県立文書館(以上広島県広島市)・尾道市立 図書館(同尾道市)〉

本調査は、創立者の一人宮城浩蔵が弁護に携わった裁判に関する資料及び、明治法律学校関係者が設立に加わった地方法律学校の資料収集等を目的としたものです。前者の一つ目が新聞紙条例違反事件をめぐる弁護に関するもので、1890年9月、政府批判をおこなった団体の記事を掲載した新聞9紙が当時の新聞取り締まりの法律である「新聞紙条例」違反に問われたとき、被告人の新聞社側弁護人として弁護活動にあたりました。本調査では地方紙の一つである「山陽新報」が同事件のことや当時東京で話題となっていた法典論争のことをどのように取り扱っているかを調査しました。次に中国地域で明治法律学校関係者が設立に関わった法律学校である広島法律学校および尾道法律学校について調査しました。両校ともすでにありませんが、その跡地を巡見しました。

最後に、日本民法上重要であり、明治大学の人権派弁護士たちもその解消に向けて努力した芸娼妓問題に 関連した文献や明治期の「芸備日日新聞」などの掲載記事についても調査を行いました。

(村上一博)

VI 他大学アーカイヴズ関係

京都大学大学文書館・同志社社史資料センター・新島旧邸訪問調査〈2013年6月26日(水)~27日(木)京都府京都市内〉

明治大学史資料センターでは、機関運営の参考にすることを目的として他大学アーカイヴズの現状の視察を行いました。

ニュースレター明治大学史 No.11

初日は京都大学大学文書館にお伺いしました。同館では西山伸同館教授の説明を受けながら、京都大学創立 100周年記念事業の一環として2003年にオープンした展示室および移転したばかりの文書館と広壮な収蔵

庫を見学しました。西山教授からは、収蔵資料の点数や受入状況について伺うとともに、独立した部局としての同館の運営体制や年間スケジュールについて詳細なお話を聞くことができました。

翌日は同志社社史資料センターを訪ねました。同センターでは布留川正博センター長(文学部教授)沼井哲男事務長、高田芳樹参与、布施・杉原社史資料調査員から大河ドラマ「八重の桜」制作に関して同志社とセンターが行っている協力の状況、研究会体制、Neesima Roomでの展示、新島遺品庫等での資料保存などについて伺うことができました。最後に新島旧邸を見学し調査を終えました。それぞれ特色のあるアーカイヴズであり、京都大学では国立大学型の公文書管理のあり方について、同志社では私立大学ならではの個人資料の収集について知ることができました。

お忙しい中快くご対応下さった両大学アーカイヴズの関係各位に御礼申し上げます。



同志社·新島保管庫

(山泉進·吉田悦志·鈴木優一·村松玄太·阿部裕樹)

Ⅲ 学内資料関係

大学史資料センターでは校規「文書の整理及び保存に関する規程」に基づき、明治大学で作成され、所定の保存年限を経過した文書のうち、歴史的に価値の高いものについて順次受け入れを行っています。

2013年度は、広報課、入学センター、施設課、総務課、校友課等から学内文書の移管を受けています。



センター第1資料室

情報・資料のご提供について(お願い)

明治大学史に関する資料をひろく収集しております。どのようなことでも結構ですので、センター事務室(O3-3296-4329・4085)までお気軽に御連絡ください。 頂いた情報・資料は整理して永く保存し、将来の明治大学史のために活用します。

2013年度 大学史資料センター事業報告

1 資料の調査・収集・公開

各部署で所蔵する、保存年限は終了したものの歴史的価値を有する学内文書の調査・移管を随時実施しました。部署により文書の保存状態はまちまちであり、これらの文書には劣化が進んでいるものも数多くあります。従前から取り組んでいる関係部署との連携をより深め、劣化の著しい文書類については速やかに移管を進めて整理・保存のための措置を講じ、大学アーカイヴズとしての機能強化を図っています

創立者・著名校友(昭和歌謡関係者・財界人関係者)・アジア留学生等に関する資料の調査・ 収集についても継続して推進しています(詳細は本誌「センター調査報告」参照)。

蓄積した資料や情報は校史を明らかにする材料としてばかりではなく、研究資源として学内外に幅広く公開します。2013年度は約300件の照会に対応しました。

2 編集・刊行

調査・収集の成果を学内外に広く公開するため,以下の刊行物を編集・刊行しました。

- ① 報告集『大学史活動』第36号
- ② 論文集『大学史紀要 第18号 アジア留学生研究 []
- ③ 広報誌『ニュースレター 明治大学史』第11号(本誌)
- ④ 『M-s t y l e 』連載「大学史の散歩道」執筆(年7回) 秋谷紀男「大学史の散歩道No.127 韓国でみた明治大学の金ボタンと襟章―朝鮮戦争と韓国 学徒義勇軍」『M-STYLE』№57 2013年5月

吉田悦志 同128 夏目漱石と明治大学生・藤澤衛彦」同No.58 2013年6月

山泉 進「同129 山崎今朝弥とケロッグ博士」同№59 2013年7月

村上一博「同130 明治大学出身の台湾人弁護士たち」同260 2013年8月

阿部裕樹「同131 明大前駅の誕生」同No.61 2013年10月

高田幸男「同132 植民地に「権利自由・独立自治」を伝える泉哲」No.62 2013年11月

村松玄太「同133 学園祭の歴史」No.63 2013年12月

秋谷紀男「同134 佐藤慶太郎の貿易思想と新興生活運動」№64 2014年2月

⑤ 広報誌『明治』連載「目で見る明治大学の歩み」執筆(年4回) 村松玄太「目で見る明治大学の歩み52 学生街の風景」『明治』第58号 2013年4月 阿部裕樹「同53 リバティタワー誕生」同59号 2013年7月 村松玄太「同54 学生食堂・売店の移り変わり」同60号 2013年10月 阿部裕樹「同55 近代日本の幕開けと私立法律学校」同61号 2014年1月

3 教育

駿河台・和泉・生田・中野キャンパスにて「学部間共通総合講座 明治大学の歴史」を開講しています。明治大学で学ぶ学生に、自分の学んでいる大学がどのような理念で設置され現在に至っているのか、そして大学の特色がどこにあるのかを知らせ、大学をより身近に感じ、大学生活を豊かにすることを目的としています。

4 展示

大学の理念や歩みを幅広い層にわかりやすく伝えていくため、センターで収集・所蔵している資料の展示を実施しました。

- ① 大学史展示室(常設展示 駿河台キャンパスアカデミーコモン地下1階)
- ② 阿久悠記念館(常設展示 同)
- ③ 大学小史展示(企画展示 駿河台キャンパス大学会館1階)
- ④ 和泉小史展示(企画展示 和泉キャンパス第1校舎1階)
- ⑤ 和泉ヶ丘の75年(企画展示 和泉図書館1階ギャラリー)

5 社会教育

内外の幅広い層に向けた公開講座等を実施し、「開かれた大学」としての社会的使命を果たします。2013年度は10月20日(日)に開催されたリバティアカデミー公開講座「日本海文化in明治大学」(コーディネーター 吉田悦志副所長)に協力しました。

6 大学史資料センター運営委員会・研究会等

2013年度にセンターで開催した各種会議・研究会等は以下の通りです。

※構成員の肩書は2013年現在。

① センター運営委員会

第60回 2013年 3月 6日(水) 議題 2013年度センター共同研究部会について 他 第61回 2013年 4月24日(水) 議題 『大学史紀要』編集委員会の設置について 創立者研究会の設置について 他 第62回 2013年 5月22日(水) 議題 新規運営委員の委嘱について 2014年度学部間共通総合講座について 他 第63回 2013年 7月24日(水) 議題 2013年度研究調査員の委嘱について 2014年度学部間共通総合講座について 他 第64回 2013年 9月25日(水) 議題 2014年度資料調査について 他 第65回 2013年11月27日(水) 議題 2014年度リバティアカデミー講座について 第66回 2014年 1月22日(水) 議題 『大学史紀要』第18号にかかる編集委員会の設置 について

② 創立者研究会

(構成員 山泉所長【代表】 村上一博委員 野尻泰弘研究調査員 村松玄太【事務局】 阿部 裕樹【事務局】)

第1回 2013年5月22日(水)内容 『明治大学の創立者』(仮称)の編集・刊行について

第2回 2013年6月5日(水)内容 『明治大学の創立者』(仮称)の構成案について

その後出版社と同書刊行について打ち合わせ

第3回 2013年6月19日(水)内容 2014年度以降の研究会活動について 他

第4回 2013年7月17(水) 内容 村上委員「宮城浩蔵のフランス留学時代―パリ大学か

らリヨン大学へ」

阿部室員「創立者に関する先行研究」 他

第5回 2013年9月25日(水)内容 村上委員「明治23年の新聞紙条例(朝憲紊乱)違反事件について」

+12 201 ()

阿部室員「岸本辰雄の藩政時代の履歴」

第6回 2013年12月11日(水)内容 分担原稿執筆状況について

③ 人権派弁護士研究会(第Ⅱ期)

(構成員 山泉進所長【代表】 村上一博委員 飯澤研究調查員 長沼研究調査員 中村正也研究 調査員 阿部裕樹【事務局】)

第27回 2013年4月25日(水) 内容 『解放群書』シートについて 他

第28回 2013年7月3日(水) 内容 山崎今朝弥関係資料集について 他

○資料調査 2013年7月3日(水) 場所 国立国会図書館 内容 山崎今朝弥関係雑誌調査 他

第29回 2013年7月24日(水) 内容 小繋事件関係資料について(報告)

②夏季調査合宿 2013年7月31日(水)~8月2日(金) 場所 青森県弘前市、岩手県盛岡市、同二戸市小繋(詳細は特集参照)

④ アジア留学生研究会

(構成員 高田幸男委員【代表】 山泉進所長 村上一博委員 秋谷紀男委員 土屋光芳研究調查員 鳥居 高研究調查員 鈴木将久研究調查員 李英美研究調查員 山下達也研究調查員 長沼秀明研究調查員 阿部裕樹【事務局】)

第21回 2013年3月6日(水)内容 『大学史紀要』第18号の内容について 他

第22回 2013年5月8日(水)内容 『大学史紀要』第18号の執筆分担について 他

第23回 2013年7月10日(水)内容 李恩元氏「張志弼と衡平運動について」

阿部室員「明治大学における留学生受け入れ体制と 留学生数の動向」他

第24回 2013年10月2日(水)内容 山下研究調査員「植民地朝鮮の学校教育史研究」

第25回 2013年12月17日(水)内容 校友会韓国・台湾支部へのアンケートの実施について

紀旭峰氏「大正期台湾人日本留学と早稲田大学所蔵の留学生関係資料」

第26回 2014年1月8日(水) 内容 2014年度大学院共通科目設置について 他

⑤ 財界人研究会

(構成員) 秋谷紀男委員【代表】 村上運営委員 白戸伸一研究調査員 阿部裕樹【事務局】)

第1回 2013年7月3日(水)内容 秋谷委員「財界人研究会の調査概要と今後の予定」 他

第2回 2014年1月22日(水)内容 秋谷委員「市橋泰治郎の法律・経済・銀行に関する活動および 思想」「佐藤慶太郎の貿易思想と新興生活運動」

白戸研究調査員「明治大学出身の財界人report 川田達男」

⑥ 昭和歌謡史研究会

(構成員 吉田悦志副所長【代表】 山泉進所長 奥原淳子研究調査員 小笠原渉元運営委員 村松玄太 【事務局】 阿部裕樹【事務局】)

第6回 2013年3月19日(金) 内容 遠藤隆司氏聞き取り(詳細は特集参照)

第7回 2013年3月25日(月) 内容 秦莞二郎氏聞き取り(詳細は特集参照)

第8回 2013年4月26日(金) 内容 聞き取り調査について

第9回 2013年7月24日(水) 内容 奥原淳子氏の参加について 村松室員「社会史・風俗史から みた阿久悠の歌謡曲の位置づけ」 他

第10回 2014年1月29日(水)内容 BSジャパン「昭和は輝いていた 作詞家 阿久悠」鑑賞・討論

(7) 『木村礎研究』刊行に関する打ち合わせ(代表 村上委員)

第1回 2013年4月6日(土) 内容 『木村礎研究』の刊行について

第2回 2013年6月1日(土) 内容 掲載論文の調整について

第3回 2013年10月12日(土) 内容 掲載論文の進捗について

第4回 2014年1月11日(土) 内容 掲載論文提出状況の確認

※同打ち合わせは、2012年度に終了した木村礎研究会の研究成果を『木村礎研究』(2014年日本経済論社刊行予定)として刊行するにあたり実施されました。

7 共催企画展「近代日本の幕開けと私立法律学校―神田学生街と法典論 争」(2014年1月24日から2月28日まで) および関係機関との連携

明治大学博物館特別展示室において、明治大学史資料センター、専修大学大学史資料課、中央大学大学 史編纂課、日本大学大学史編纂課共催による標記企画展を開催しました。

この4校は私立法律学校としての源流を持ち、明治期から神田の地にキャンパスを構えていました。 今回の展示では4校に共通する「神田」と「法律」をキーワードに、それぞれの大学アーカイヴズ所蔵 資料から厳選した約150点の資料を展示し、神田で学び、生活した学生・教員たちや個性ある創立者 たちとキャンパスの紹介を行いました。

また本展示では私立法律学校を二分する大論争となった「法典論争」を大きなトピックスとして取り



上げました。当時描かれた法典論争の風刺画を大きく引き伸ばしてディスプレイし、それを取り囲むように法典論争関係者の切迫したやりとりが記された手紙などの貴重資料を配置しました。2月1日に開催したギャラリートークに参加した来館者は展示された資料に熱心に見入っていました。「毎日新聞」「東京新聞」『東京人』などのメディアにも取り上げられ、最終的に来場者数は2500名を超え盛況のうちに幕を閉じることができました。

今後も各大学で所蔵する資料や情報を集約し、成果を広く公開する予定です。2013年度、展示に携わった4校の大学史担当者は科学研究費助成金基盤(C)の採択を受け(2016年度まで)、法典論争期における各校の動きをダイナミックに把握すべく各資料のデータベース化等の作業を進めています。

大学史資料センタースタッフ一覧(2014年6月1日現在)

所 長 山泉 進(法学部教授)

副 所 長 吉田 悦志(国際日本学部教授)

運営委員 村上 一博(法学部教授)

同 秋谷 紀男(政治経済学部教授)

同 高田 幸男(文学部教授)

同 岩﨑 宏政(生田キャンパス課長)

(以上,センター規程第8条第1項第3号に基づく委員)

同 奥住 賢二(総務部長)

同 鈴木 優一(総務課長)

(以上, センター規程第8条第1項第4・5号に基づく委員)

○事務局(総務部総務課〈大学史資料センター担当〉)

村松 玄太

直井 哲也

飯塚 貴子

阿部 裕樹

竹内 桂(嘱託)

森本 訓子(嘱託)

林 艶子(嘱託)

明治大学史資料センター規程(2002年度規程第10号)

(設置)

- **第1条** 学校法人明治大学(以下「本法人」という。)に、明治大学史資料センター(以下「センター」という。)を設置する。 (目的)
- **第2条** センターは、本法人の歴史(以下「校史」という。)に関する調査、研究並びに校史に係る資料(以下「資料」という。)の収集、保存及び公開を行い、もって本学の発展に資することを目的とする。

(事業)

- 第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 - (1) 校史の調査及び研究
 - (2) 校中の編纂
 - (3) 資料の収集,整理及び保存
 - (4) 資料の展示
 - (5) 展示場の管理・運営
 - (6) 校史に関する情報の提供等
 - (7) 出版物等の編集・刊行
 - (8) 講演会等の実施
 - (9) その他必要な事業

(組織)

- 第4条 センターは、次に掲げる者をもって組織する。
 - (1) 所長
 - (2) 副所長
 - (3) 第8条第1項第3号に定める運営委員
 - (4) 第8条の2に定める研究調査員
 - (5) 総務部総務課長及び事務職員
- 2 前項に掲げる者のほか、センターは、事業計画の実施上必要があるときは、嘱託を置くことができる。 (所長)
- 第5条 所長は、センターの業務を総括し、センターを代表する。
- 2 所長は、専任教員である運営委員の中から、運営委員会が理事長に推薦し、理事会において任命する。
- 3 所長の任期は、2年とする。ただし、補欠の所長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 所長は、再任されることができる。

(副所長)

- 第6条 副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 2 副所長は、所長が理事長に推薦し、理事会において任命する。
- 3 前条第3項及び第4項の規定は、副所長の任期及び再任について準用する。

(運営委員会)

- 第7条 センターに、次に掲げる事項について審議するため、運営委員会を置く。
 - (1) センターの事業計画に関する重要事項
 - (2) センターの管理・運営に関する重要事項
 - (3) 校史の調査及び研究に関する事項
 - (4) その他運営委員会が必要と認めた事項

(運営委員)

- 第8条 運営委員会は、次に掲げる運営委員をもって構成する。
 - (1) 所長
 - (2) 副所長 (3) 校中に関う
 - (3) 校史に関して専門知識を有する専任教職員の中から、運営委員会の推薦に基づき、理事長が理事会の同意を得て委嘱する者若干名
 - (4) 総務部長
 - (5) 総務部総務課長
- 2 運営委員の任期は、職務上運営委員となる者を除き、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 補欠の運営委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究調査員)

- \$8条02 センターに、研究調査員若干名を置くことができる。
- 2 研究調査員は、本学教職員の中から、所長が運営委員会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項の規定にかかわらず、運営委員又は研究調査員が退職する場合であって、当該者に継続して校史の研究を行わせることが適切であると所長が認めるときは、退職後も引き続き研究調査員として委嘱することができる。 (委員長及び副委員長)
- 第9条 運営委員会に,委員長及び副委員長を置く。
- 2 委員長には所長を、副委員長には副所長をもって充てる。
- 3 委員長は、運営委員会の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

- 第10条 運営委員会は、委員長が招集する。
- 2 運営委員会は,運営委員の過半数が出席しなければ,会議を開き,議決することができない。
- 3 運営委員会の議事は、出席運営委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 理事長は,運営委員会に出席し,意見を述べることができる。
- 5 運営委員会は、必要に応じて、運営委員以外の者を出席させることができる。 (事務)
- 第11条 センターに関する事務は、総務部総務課が行う。

(規程の改廃)

第12条 この規程を改廃するときは、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則

第13条 この規程に定めるもののほか、センターの管理及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て定める。

附 則(省略)



三木武夫研究(日本経済評論社刊)

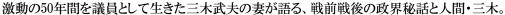
明治大学史資料センター監修 小西徳應編著 A5判上製 400頁 定価5616円(2011・10)

国民を恐れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る明治大学三木武夫研究会共同研究の成果。



総理の妻 三木武夫と歩いた生涯 〈日本経済評論社刊〉

三木睦子述 明治大学史資料センター監修 明治大学三木武夫研究会編 四六判上製288頁 定価2160円(2011・10)





布施辰治研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修、山泉進・村上一博編著 A5判上製 328頁 定価4320円(2010・12) 日本統治下の朝鮮で独立運動家の弁護活動を引き受けるなど、日本のシンドラーとも呼ばれた 「人権派弁護士」 布施の多面的な活動を史料とともに検証する。



明治大学小史 人物編〈学文社刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製248頁 定価2484円(2011・10)

明治大学が輩出し、各界で活躍する人物山脈は実に多様である。大学行政・アカデミズム・法曹・政治・財界・作家・芸能文化・スポーツの諸分野から119名を精選して紹介。国際化の潮流を取り入れ、「アジア人留学生」も項目も設けた。明大人必携の一書。



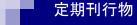
新刊予告

明治大学の創立者〈仮題〉〈創英社/三省堂書店刊〉

明治大学史資料センター監修、年内発売予定(価格未定)

木村礎研究 戦後史学への挑戦〈仮題〉〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修、村上一博編 9月発売予定(価格未定)



※書店では販売しておりません。購入ご希望の方はセンターまで。



明治大学 アジア留学生研究 I 大学史紀要第18号 A5判並製 394頁 頒価800円(2014・3) 明治大学にはアジア各地からの留学生を受け入れてきた120年近い歴史があり、これまで様々な人材を輩出してきた。「アジアの中の明治大学を探る」アジア留学生研究会の試み。

(近刊) 大学史活動 第36集 A5判並製 頒価500円 大学アーカイヴズ担当者による最新成果報告。

ニュースレター明治大学史 No.11

http://www.meiji.ac.jp/history/

発 行 日 2014年6月1日

編集・発行 明治大学史資料センター 所長 山泉 進

住 所 101-8301 千代田区神田駿河台1-1

電 話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086